

# 環境過敏症分科会 2023 年度活動報告

北條祥子<sup>1)2)</sup> 水越厚史<sup>3)</sup> 黒岩義之<sup>4)5)</sup>

- 1) 東北大学大学院歯学研究科, 2) 尚絅学院大学, 3) 近畿大学医学部予防医学・行動科学教室,  
4) 帝京大学医学部附属溝口病院脳神経内科・脳卒中センター, 5) 財務省診療所

## Report of the Environmental Sensitivity Subspecialty Meeting (2023)

Sachiko Hojo<sup>1)2)</sup> Atsushi Mizukoshi<sup>3)</sup> Yoshiyuki Kuroiwa<sup>4)5)</sup>

- 1) Tohoku University Graduate School of Dentistry, 2) Shokei Gakuin University,  
3) Department of Preventive Medicine and Behavioral Science, Kindai University Faculty of Medicine,  
4) Department of Neurology and Stroke Center, Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital,  
5) Ministry of Finance

### 【分科会設立の背景と目的】

近年、先進国を中心に、環境過敏症（環境不耐症）と呼ばれる健康障害を訴える人が急増しており、早急な病態解明や予防対策が求められている。環境過敏症とは通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（室内空気汚染物質・受動喫煙・医薬品・殺虫剤・芳香剤・柔軟剤等）、生物的要因（カビ、ダニ、花粉、ウイルス等）、物理的要因（音、光、地震、低気圧、パソコン・スマホ・MRI 装置等からの電磁場など）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称である。その代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症であり、アレルギー疾患と密接に関係していることはよく知られている。しかし、本症は種々の要因の複合的な影響で発症すると推定され、その病態は科学的に未解明な部分が多い。日本臨床環境医学会環境過敏症分科会（以下、本分科会）の目的は国内外の研究者と共同研究や情報交換を行いながら、環境過敏症の科学的に未解明な病態を解明し、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすことにある。なお、本分科会は室内環境医学会の環境過敏症分科会と協力体制を組んでいるが、両分科会はそれぞれの母体学会の特色を生かしながら活動している。現在、本分科会では“環境過敏症の病態解明、診断基準と有効な治療法の開発”を主として検討し、室内環境学会環境過敏症分科会では、“室内環境改善などの発症予防法の確立や認知度を高めるための活動”を主として検討している。以下に、2023 年度の活動を報告する。

### 【2023 年度の活動】

#### 1. 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会の活動

##### 1.1 研究発表

本分科会のメンバーが、日頃の研究成果を 33 の一般演題（口頭・ポスター）として発表した。

##### 1.2 日台国際交流シンポジウム「日本と台湾の環境過敏症患者の現状と病態解明・発症予防に対する今後の展望」

日時：6月25日（日）15:00-16:45

<内容>本分科会が後援し、メンバーの企画により開催された。まず、企画者代表の北條祥子（東北大学）が開会の挨拶として趣旨説明を行った。次いで、以下の順に、台湾2名、日本3名が話題提供した（写真1）。

- 1) Lin-Hen Chen et al.: Current status of allergic diseases in Taiwan. Shau-ku Huang: Multi-dimensional investigation of environmental influence on allergic diseases and its mitigation strategy: Taiwan experience.
- 2) Sachiko Hojo et al: Environmental Hypersensitivity in Japan – Current Status and future prospects from an epidemiological perspective.
- 3) Kentaro Watai & Masami Taniguchi: Elucidating the pathogenesis of multiple chemical sensitivity using genetic methods: Genome-wide association study and gut microbiome analysis.
- 4) Yoshiyuki Kuroiwa, Toshiaki Hirai et al: A neuroscientist’s hypothesis of the pathogenesis of environmental hypersensitivity and future prospects. (ビデオ参加)

その後、総合討論を行い、会場の参加者と活発な質疑応答を行った(写真2)。最後に、日本臨床環境医学会理事長の坂部貢氏が閉会の挨拶をした。日本と台湾の情報交換がなされ、今後、この分野の研究が国際的に発展していく礎となる兆候を感じる事ができた。



写真1

写真2

### 1.3 環境過敏症分科会メンバー交流会の開催

日時：6月24日(土) 20:00-21:00

場所：ポスター掲示会場

参加者：21名

<内容>参加者全員が一言ずつ、自分の研究について話しあった(写真3)。



写真3

### 1.4 台湾研究者との交流会

日時：6月25日(日) 18:00-20:00

場所：居酒屋

参加者：13名(台湾6名、日本7名)

<内容>学術大会終了後の慰労会をかねて会食しながら交流した(写真4)。



写真4

### 1.5 関西医療大学鍼灸センター見学会

日時：6月26日(月) 10:00-13:00

場所：関西医療大学附属鍼灸診療所

参加者：11名(台湾6名、日本5名)

<内容>近藤哲哉教授(心療内科医師)の事前説明を受けた後、鍼灸診療所の王財源先生(保健医療学部教授)の説明を受け、2名が王教授の鍼灸被験者体験もさせていただき、大変、有意義で勉強となった(写真5)。



写真5

## 1.6 環境過敏症患者に配慮した住宅見学会

日時：6月26日（月）13:00-17:00

参加者：9名（台湾6名、日本3名）

＜内容＞足立和郎氏（一級建築士）が施工している西宮市と神戸市の化学物質過敏症（CS）対応集合住宅2棟（工事中・完成版）を足立氏の詳しい説明を受けながら見学した。また、上田厚先生（CS熊本の会）から熊本のCS対応住宅について、説明があった。台湾では、まだ、CS対応住宅は皆無とのことで、“今後の台湾のCS対応住宅建設にとって、大変、参考になった”と大好評であった（写真6）。



写真6

## 2. オンライン勉強会の開催

### 2.1 第1回オンライン勉強会

日時：2023年4月23日（月）14:00-17:00

参加者：22名（写真7）

座長：黒岩義之、北條祥子

ZOOM担当・記録：鈴木高弘、浦野真弥

＜内容＞第1部の勉強会では、以下の5名が話題提供し、参加者と活発な質疑応答を行った。

- 1) 水越厚史（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室講師）：環境過敏症の発症要因についての質問紙による調査結果について
- 2) 永吉雅人（上越看護大学准教授）：上越市における児童・生徒の化学物質過敏症に関する調査の経緯と全国規模の調査について
- 3) 近藤哲哉（関西医療大学教授）：五行から捉えた環境過敏症の治療
- 4) 中吉隆之（関西医療大学講師）：鍼灸治療の概念について
- 5) 柳田徹郎（東京大学大学院）：環境過敏症に配慮したすまいとまちづくり

第2部の審議では、今後の環境過敏症分科会活動計画について、全員で活発な審議をした。

### 2.2 第2回オンライン勉強会

日時：2023年9月10日（日）13:00-16:00

参加者：28名（写真8）

企画・司会進行：北條祥子、黒岩義之、水越厚史

ZOOM担当：鈴木高弘

記録：浦野真弥、中里直美、川瀬晃弘、菅原正則

＜内容＞以下の4部構成で実施した。

第1部：基調講演

- ・ 黒岩義之：脳科学の視点からみた環境ストレス過敏症（不耐症）の病態メカニズム：発症予防は胎児期・幼児期からが重要



写真7

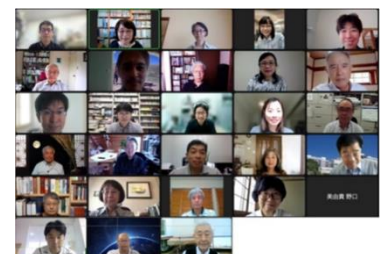


写真8

## 第2部：中枢神経感作関係の話題提供

- ・ 小橋 元、春山康夫（獨協医科大学）：種々の症状を呈する難治性中枢神経感作の役割解明と QOL 向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究
- ・ 近藤哲哉・中吉隆之：中枢神経感作症候群患者に対する漢方・鍼灸治療の有効性に関する研究中間報告

## 第3部：児童生徒・大学生・若者を対象とした環境過敏に関する実態調査

- 1) 永吉雅人（新潟県立看護大学）：児童生徒（小1～中3）の環境過敏（香害など）に関する全国規模の実態調査
- 2) 寺田良一（明治大学名誉教授）：香害・化学物質過敏症と有害化学物質規制政策
- 3) 鈴木高弘（横浜薬科大学）：脳脊髄液漏出症患者の電磁過敏反応
- 4) 加藤やすこ（いのちと環境ネットワーク）：GIGA スクールとデジタル教科書の問題点：子どもへの健康影響と諸外国の対策
- 5) 角田和彦（かくだこども&アレルギークリニック）：環境電磁場のヒト脳血流への影響

## 第4部：総合討論

テーマ：マルチ異分野の研究者が環境過敏症の病態解明・発症予防研究をどう進めたらよいか？

全体の総括：黒岩義之

## 3. 情報交換・情報共有

メーリングリストを介して、日常的に共同研究や最新知見の情報交換・情報共有を行った。

## 4. 幹事会

ZOOM での幹事会を頻繁に行った。

## 5. 社会貢献活動

社会貢献活動として、各メンバーが、夫々の場所で、環境過敏症の認知度を高める活動を行った。

### 【分科会メンバー（アイウエオ順）\*2023 年度幹事】

代表：北條祥子 副代表：黒岩義之、水越厚史

<医学・医療分野>

相澤好治、青木真一、東 賢一、上田 厚、内山巖雄、大澤 稔、奥村二郎、小倉英郎、角田和彦、小橋 元、近藤哲哉、坂部 貢、\*鈴木高弘、鈴木珠水、平 久美子、高塚俊治、高野裕久、土器屋美貴子、\*中里直美、中吉隆之、西影京子、\*乳井美和子、春山康夫、松井孝子、宮田幹夫、吉田貴彦、渡井健太郎

<建築・生物学・化学・物理学・工学・社会科学分野>

池田耕一、一條祐介、岩崎由美子、上田昌文、浦野真弥、川瀬晃弘、木村 - 黒田純子、近藤加代子、寺田良一、東門田誠一、徳村雅弘、\*永吉雅人、二科妃里、長谷川麻子、林 基哉、\*黄 琳琳、星野陽子、柳沢幸雄、柳田徹郎、吉野 博